

通俗心理学と社会心理学との 生産的なあるべき関係

唐沢かおり
東京大学

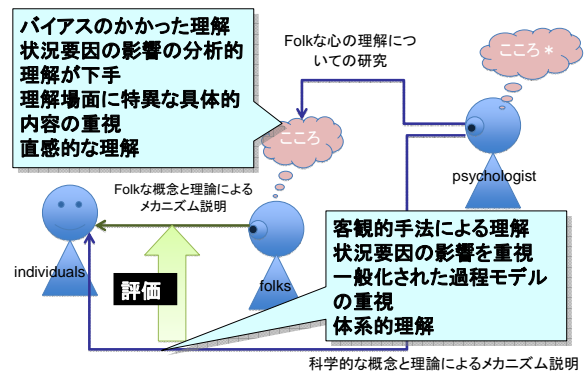
お題

- 集団錯誤の呪縛が解けた後の社会心理学？
通俗心理学と社会心理学のあるべき関係？
 - 通俗心理学と社会心理学の馴れ合い関係
 - 集団錯誤の呪縛には通俗心理学が関与
 - 通俗心理学との関係を断ち切ることはできない
- 通俗心理学と不適切に関係することを排除しつつ、生産的にお付き合いするにはどうしたらよからう？
- 山口さんの「試み」を意味づける作業を・・・

社会心理学にとって通俗心理学とは

- 俗人も、社会心理学者も、社会的な場面における人の行動を説明することが課題
- Official storyとしては、社会心理学は「科学」であることにより、通俗心理学から差別化される
 - こんなことをわざわざ言わなくてはいけないのも社会心理学の宿命だけど
- むしろ「研究対象」である(社会的認知研究)

社会心理学 vs. 「Folkな心の理解」



通俗心理学がもたらす問題

- しかし、研究の実際を振り返ったとき、仮説構築やモデル化の際のリソースとなったり、差異化や同化が不適切に行われるところから、様々な問題が・・・
- 常識と心のモデルへの制約
 - 仮説やモデル生成・構築時の問題
- 通俗心理学の追認を超えない
 - 参加者の反応を通俗心理学が規定する問題
- データ依存
 - 通俗心理学との差異化の問題
- データとことばによる表現のギャップ
 - 過度に通俗心理学化してしまうときの問題

研究の実際と通俗心理学

仮説・モデル構築時の問題

- 仮説の妥当性評価に人の「性質」「心的過程」のあり方に関する「常識的」理解との整合性が重要な役割
 - 仮説構築＝過去の研究知見、モデル、理論に依拠して新たな要因の効果や別の心的過程の可能性を考える作業
 - 「そのような場合、人はどう反応するのか(動機の状態、考え方、感情反応など)」について推測し、それを元に仮説を構築する
- 常識的理解を仮説やモデルが超えない

通俗心理学の追認

- 仮想的場面を与えて、反応を回答させる手法の多用
 - あなたの同僚の〇〇さんが、ヒミツで温泉旅行に行き(or 急な病気で入院し)教授会を欠席したため、重要なお知らせを見逃して困っています
 - ⇒「同情?」「助ける?」「無視する?」などなど
 - コスト、倫理的配慮の制約
- その場面での自分の反応の内省・予測であるが、「通俗心理学」内の「理論」を拾い出している

「データ」への逃避

- 実証科学である、という点での差異化
- 定められた手法に基づき収集されたデータを基盤に議論する点において、一般人(や、他領域)とは異なる
 - 「正しい」ことがデータにより証明された…?という言い方
- しかし「正しさ」は、データを取ることで保証されるものではない
 - 「正しく」取っているか(測定の問題)
 - データからの「正しい」解釈であるか
- そもそも言説に価値があるのかどうかの問題

迎合的議論

- 社会心理学の知見は、基本的には「もどかしい」
 - データの統計解析→確率論的に現象を把握する研究方法
 - 状況や人によって(当然)結果が異なる
 - ある個人の行動予測の精度は低い
- 日常言語に戻す⇒常識心理学に同化
- 実験結果の過度の一般化を行う
- 結果を述べる際に「決定論的」な表現を用いる
 - 「人々が日常経験している組織運営や人間関係の難しさ」を、クリアに切り取り、データに基づいて対処法を提示できる学問

しかし、 通俗的心理学と絶縁できませんから

- 仮説構築のリソースであるとともに、現状の社会心理学のモデルに深く入り込んでいる
- 通俗的心理学と無関連な「心の理解のモード」がすぐに得られるわけではない
- 「集団錯誤の呪縛が解けた後…」?
- 「心」に関する通俗的理解利用、現在の研究の方法の放棄は無理…
- 注意深く健全に利用することが生産的であるべき関係への道だが…

生産的であるべき関係に向けて

- すぐにできそうなこと
 - 先述の問題を排除する
 - 研究リソースとしてさらに利用する
- 試行錯誤が必要なこと
 - 「まともさ」を維持しつつ、探索的に、新しい操作測定手法を試みながら、データの蓄積に基づいて議論する
 - 通俗的理解の洗練型を超えた社会心理学の模索

生産的であるべき関係に向けて

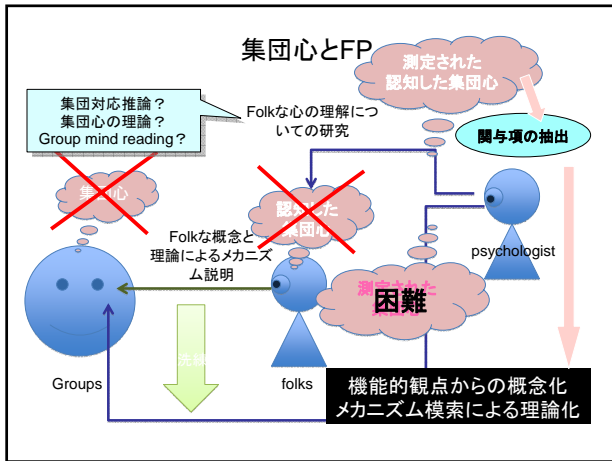
- すぐにできそうなこと
 - 先述の問題を排除する
 - 研究リソースとしてさらに利用する
- 試行錯誤が必要なこと
 - 「まともさ」を維持する
 - 測定手法を議論する
 - 通俗的理解の洗練型を超えた社会心理学の模索

サポート

山プロジェクト 新しい操作 累積に基づいて

「できそうなこと」について

- 問題の排除
 - 研究の実践の中で、問題を回避できる研究者と、問題を発見できる査読者を育成する
 - ⇒方法論基礎教育の問題
- 研究のリソースとしての利用
 - 通俗的信念の内容記述を重視した研究
 - さらに仮説のリソースとしての利用
 - 個人の行動⇒他の社会現象 e.g., 集団心
 - 通俗的信念の影響を考慮する際のリソースとしての利用



「試行錯誤が必要なこと」について

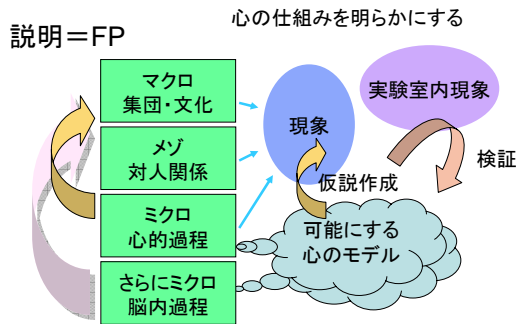
- 「まともさ」を維持するための努力が必要
- 探索的データからの「断定」は行わない
 - 仮説構築の道具としての位置づけ
- 操作・測定と概念の対応は、はずせない
 - 操作・測定が不可能な概念導入はできない
 - 何を操作・測定しているかが不明確な研究計画はだめ
- 操作・測定している概念の理論的意義は要求されるべき
 - 安易な〇〇尺度、〇〇指標の作成は不可

以下は
社会心理学(者)と哲学(者)の
生産的なあるべき関係の話

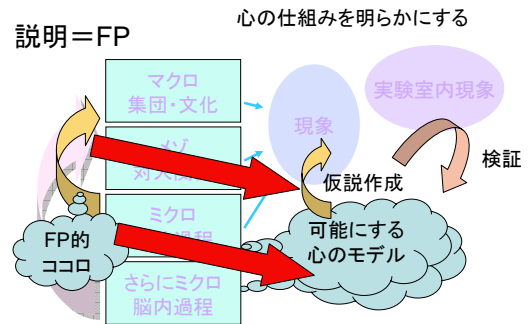
通俗的理解の洗練型を超えた・・・?

- 社会心理学は、生理的反応や個人の認知、対人関係、集団、文化など、さまざまなレベルで定義される変数を独立・従属変数として取り込んできた『重層的』な領域である。
- 社会的行動の背景にある心の仕組みを明らかにする学問としては成熟した学問。
- しかし、それをこえて、人の心に関わる諸現象を、重層的に関連付けるプラットフォームであるとするならば、その関係付けの作業は、これからの課題として私たちの前に提示される。
 - (2009年日本心理学会シンポ「社会心理学の重層性と可能性」企画趣旨)

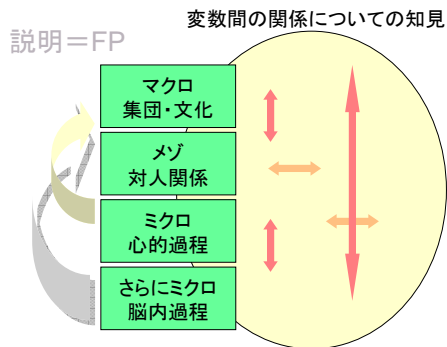
「心の仕組み」PJとしての社心



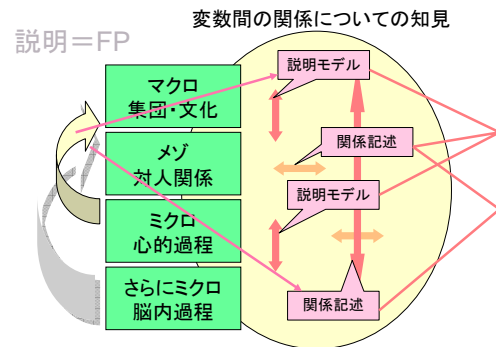
「心の仕組み」PJとしての社心



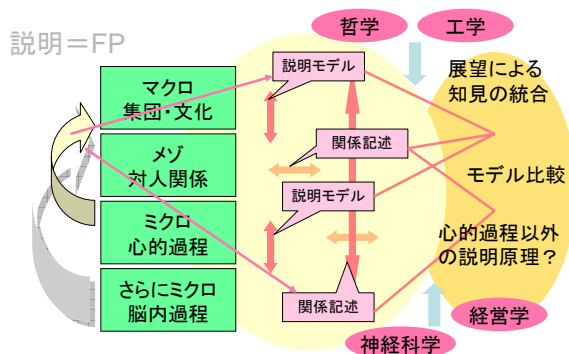
プラットフォームとしての社心



プラットフォームとしての社心



プラットフォームとしての社心



プラットフォームとしての社心

